

潮音寺だより

第 288 号
平成 19 年 10 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11

同^{どう}

事^じ



水彩：松村憲一

同事^{どうじ}というのは

環境を

振る舞いを

自分と他と

同化させること

同じ状況に

身を置き

共に泣き

笑い合つこと

つまり

世間の激流に

溺れ苦しむ者へ

陸^おからの

無^む為^ゐな叱^ち咥^ぜ

励^りましではなく

理^り屈^くなく

流^りれに飛^とび込^こむ

菩^ぼ薩^{だつ}行^{ぎょう}

『シンガーラへの教え』②

日本人の宗教は、神道と仏教であるといわれます。一方で、「自分は無宗教である」と公言している人も少なくありません。ところが、子供が生まれればお宮参り、新車を買えばお祓いをし、家を建てるときには地鎮祭を行い、どこそこへの神社仏閣へ行けば、いろいろな祠ほひ、お堂を巡り、費銭かいせんを投げ、どのような神様、仏様がいらっしゃるのかも頓着とんちやくせず、たいていは同じような拝み方をしています。口の悪い評論家は、「利益りやくたなぼた方式」なんて呼んでいます。

世界の宗教に詳しい町田宗鳳氏は、縄文時代から弥生時代を経て、日本人の宗教的感情の根幹には、いわば、「いのち礼讃教」といってべきものがある」と指摘されています。

そして、さらにその源流を訪ねると、東南アジア辺りに行き着き、歴史のある時期に、その辺りの人々が渡って来て、私たちの文化の一つの原型を作ったのではないかとおっしゃっています。

さて、「1」で先回に引き続いて、『シンガーラへの教え』に話題を移します。この経典の主人公、シンガーラは、「いのち礼讃教」の現代日本人の宗教意識とあまり変わらない人物として登場しています。ですから、経典は、釈尊が、自分に説いてくだらなっているのだという認識をもつて読むべきではありません。そうするのではなく、「利益りやくたなぼた方式」ではない、自らが心の土を耕し、種を蒔き、仏果を得よう、仏法を学ぼうという態度が生まれてくるのだと思います。

◎南方 師弟関係

実に、弟子は次の五つのしかたで、南方に相当する師に奉仕すべきである。すなわち、(1) 座席から立って礼をする。(2) 近くに侍する。(3) 熱心に聞かす。(4) 給仕する。(5) うやうやしい態度で学芸を受ける。

実に、これらの五つのしかたによつて、弟子は南方に相当する師に奉仕すべきである。

また、師は次の五つのしかたで弟子を愛する。すなわち、(1) 善く訓育し指導する。(2) 善く習得したことを受持させる。(3) 忘れないようにさせる。(4) すべての学芸の知識を説明する。(5) 友人朋輩の間にかれのことを吹聴する。

(5) 諸方において庇護してやる。実に、南方に相当する師はこれ

ら五つのしかたによつて弟子から奉仕される。また師は「これら五つのしかたで弟子を愛する」のである。このようにしたならば、かれの南方は護られ、安まであり、心配がない。

古く、日本の仏教界での師弟関係は、「三尺下がつて師の影を踏まぬ」といふ教え方が支配していました。このでも、封建時代の儒教の名残でしょうか、一般社会でも、それに近い師弟関係を良しとする向きが少なからずありますが、釈尊の説かれる師弟関係は、それとはずいぶん違います。特に、弟子への思い遣り、気配りに関しては、先生、師と呼ばれる立場の人は、重々心せねばならぬところでしょう。

◎西方 夫妻関係

実に、夫は次の五つのしかたで、

西方に相当する妻に奉仕すべきである。すなわち、(1) 尊敬する(2) 軽蔑しない(3) 道を踏みはずさない(4) 権威を与える(5) 装飾品を提供する(6) によつてである。西方に相当する妻は、これら五つのしかたで夫に奉仕されるのである。

また、妻はつぎの五つのしかたで夫を愛する。すなわち、妻は(1) 仕事を善く処理し、(2) 眷属を良く待遇し、(3) 道を踏みはずすことなく、(4) 集めた財を保護し、(5) 為すべきすべてのごとからについで、巧妙にして且つ勤勉である。

西方に相当する妻は、これら五つのしかたによつて夫から奉仕され、またこれら五つのしかたで夫を愛するのである。このようにし

てかれの西方は護られ、安まて心配がない。……………

「このでも、釈尊の教えは、現代人の我々にもズバツときます。夫は妻に対し「奉仕せよ、尊敬せよ、軽蔑するな」と、亭主関白を自認している方には、耳が痛いところでしょう。「道を踏みはずすな」とは「浮気をするな」といふことです。「権威を与える」といふことは「ブッタゴースアの注釈では、「食事の時に分配の権限を与える」ということだそうです。実に、女性の心理を見事に掴んでおられます。

さらに驚くべきは、「アクセサリーをプレゼントしなさい」とあります。日本男性は、「釣った魚に餌をやる馬鹿はいない」などとうそぶいていますが、大いに反省すべき点でありましょう。

楊子 ようじ

楊柳（ようりゅう）を材料にして作られたため「楊子」「楊枝」の名がついたが、起源は仏教。僧団では、古くから食事のあとに口や手を清潔にすることをモットーとされ、僧侶の持ち物として携帯が許された十八物にも加えられていた。

仏教の戒律を説いている『五分律』には、楊子の功德として「一、食を満たす。二、冷熱を除く。三、味を分別できる。四、口の臭気を除く。五、眼目明静となる」の五つをあげているが、これは現代にも通じそうだ。

その他、楊子の作り方、使用方法、捨て方まで、詳しく説明されているが、当時の楊子は長さ約十センチで小指ぐらいの太さがあったといっから、まるで短い棒でもか

かているようなもの。一方の端は削ってじがらせ、もう一方はかみ砕いて歯をみがくの用にいられた。つまりは、楊子と歯ブラシを兼ねていたときえこしい。日本に伝わったからは、楊子も小さくなり「楊子」、あるいは歯みがき用の「楊子・総楊子」として、一般に普及していった。

雑記



▼位牌堂落慶法要

◎期日 10月28日(日)

◎時間 1時より稚児行列
2時より慶讃法要

かねてよりのご案内申し上げてきました、法然上人八百回大遠忌記念事業、位牌堂落慶法要がいよいよ間近に迫っております。

お稚児さんは、百名前後のご参加をいただけるもよつです。また、今回、住職の交代の儀式、晋山式（しんざんしき）も併せて厳修させていただきます。

当日は、何分混雑が予想され、不便・迷惑を多々おかけするものは存じますが、ご参詣下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。

なお、駐車場は百台分程度お借りしてありますが、なるべく公共交通機関等をご利用いただければ幸いです。

▼表紙

美術の先生をなさっておられた檀家の松村憲一氏から、ご提供いただきました。数年後には、氏と共著の本が出せたらいいなと、密かに目論んでおります。

◆小さきも大ききも麿（にぎ）く

色の、草 沐魚